

資料1



「みえ県民カビジョン・第三次行動計画」(仮称) の策定に向けて

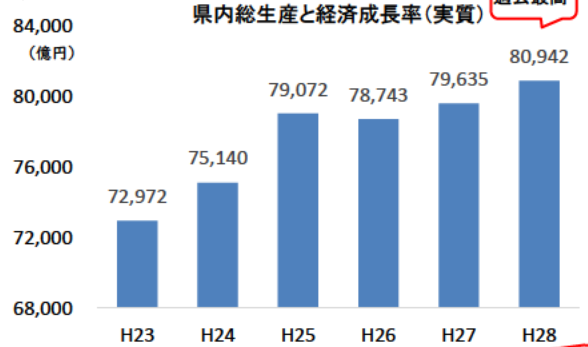


論点

- ①国内外及び三重県を取り巻く時代潮流と現状認識の捉え方は適切か。
- ②新しい概念である「SDGs」と「Society5.0」の考え方を次期行動計画に位置付けて、政策展開していく方向である。「Society5.0」がめざす「経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」の実現は、全てのステークホルダーが協創の視点で取り組むことが不可欠と考える。官民共通で留意すべき視点や考え方は何か。また、それらを前提として県政をどのように展開していくべきか。

I 三重県を取り巻く時代潮流と現状認識(資料2参照)

①県内経済、雇用情勢の動向

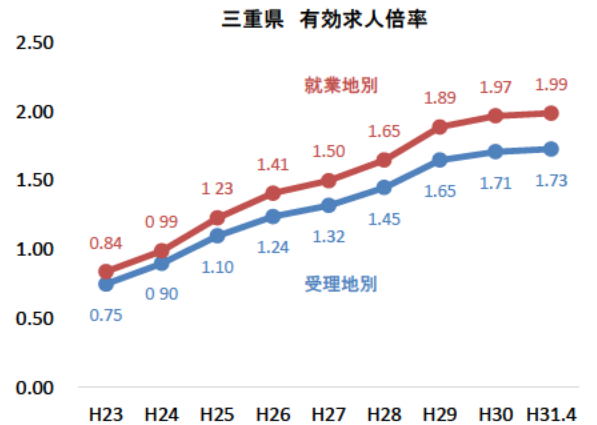
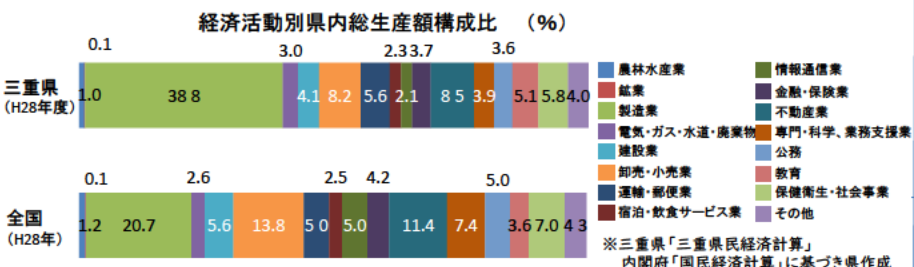


都道府県別の実質経済成長率(2009~2015年度)(%)

1	宮城県	21.0
2	三重県	15.0
3	岩手県	14.1
4	群馬県	13.8
5	愛知県	13.0
6	栃木県	11.7
7	沖縄県	11.6
8	山形県	11.5
9	兵庫県	11.0
10	富山県	10.5
...
21	東京都	7.6
...
全国平均		7.7

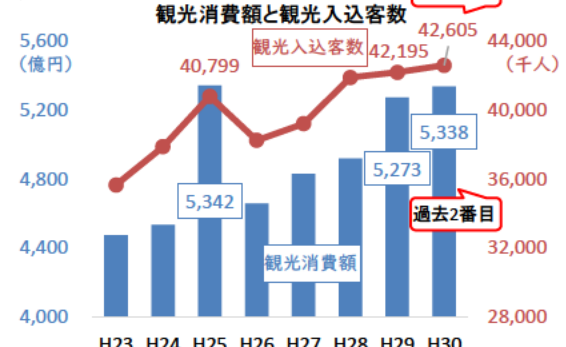
※三重県「三重県民経済計算」

平成28年度県内総生産(速報)は実質で8兆942億円では過去最高。平成21-27年の実質経済成長率は全国2位。

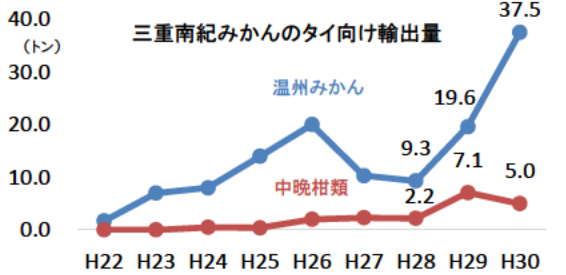


有効求人倍率は高水準を維持しており、全国数値を上回る。雇用情勢は着実に改善。

②グローバル化の進展



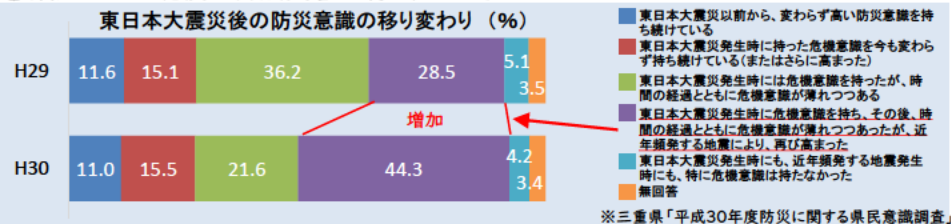
平成30年の観光消費額は遷宮のあった平成25年に迫る5,338億円。観光入込客数4,261万人で過去最多更新(現行の推計法となった平成17年以降)。外国人延べ宿泊者数は34.1万人と前年比101.9%であったが、延べ宿泊者数全体の4%に留まる。



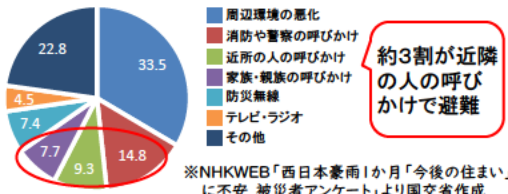
平成22年度から実施。日本産みかんなどでトップシェア。検疫条件変更により輸出が減少するも、検疫対応(殺菌作業)を機械化し、効率を上げたこと等で輸出量が増加。

この他、平成30年12月にシンガポール向け活力キ輸出解禁(全国初)。約2.2t出荷。

③頻発する大規模な自然災害の脅威への対応



西日本豪雨NHK被災者アンケート(広島県、岡山県、愛媛県)

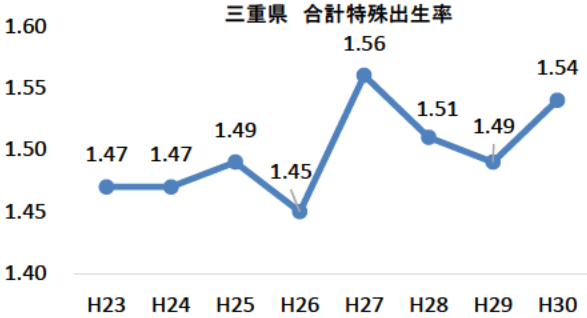


・危機意識が再び高まっている。
・しかし、同調査では「地域や職場の防災活動に参加していない」「局地的大雨等において避難しない」と回答する方が増加するなど、課題もある。

約3割が近隣の人の呼びかけで避難

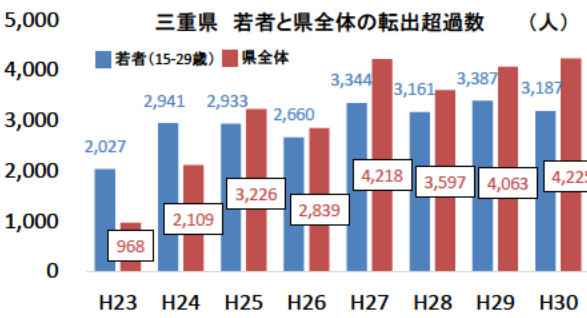
「みえ県民カビジョン・第三次行動計画」(仮称)の策定に向けて

④人口減少及び少子・超高齢化の進展



H30は1.54で、全国平均を0.12上回った。H29から0.05増加しており、増加幅は全国1位(福井県も同順位)。

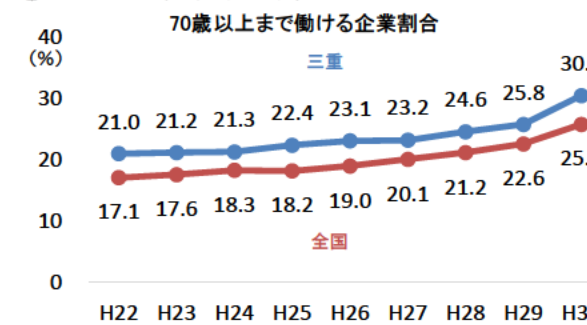
※【厚生労働省】人口動態統計 H30は人口動態統計月報年計(概数)の概況



H29、H30と連続で4,000人を超える転出超過。うち若者(15-29歳)が約8割を占める。

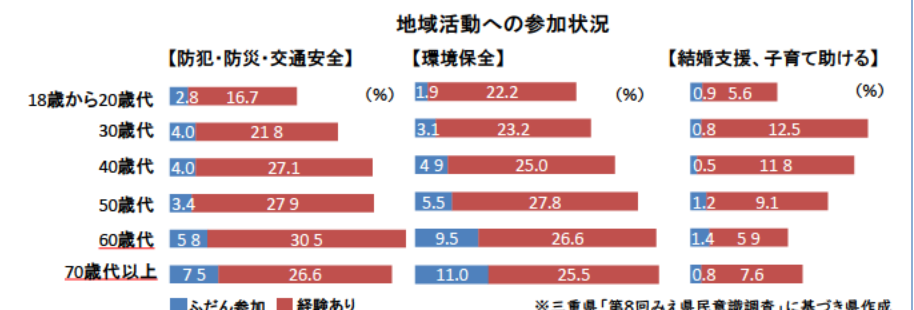
※総務省「住民基本台帳人口移動報告」に基づき県作成

⑤人生100年時代の到来



70歳以上まで働ける企業割合は全国平均を上回っており、H30は全国10位。

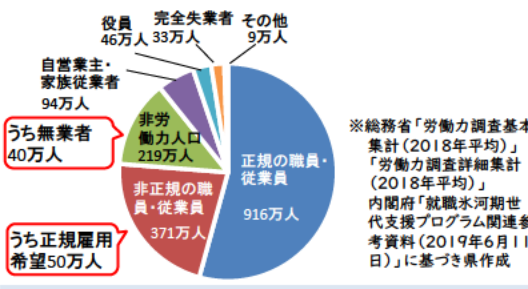
※厚生労働省「高齢者の雇用状況」集計結果に基づき県作成



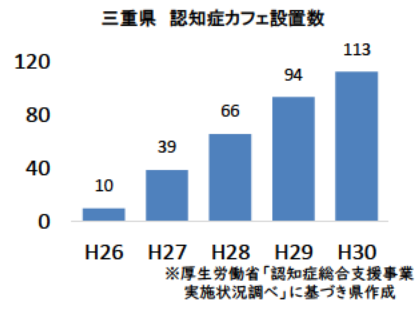
※三重県「第8回みえ県民意識調査」に基づき県作成

⑥「孤独や孤立」と「つながり」の輻輳化

(全国)就職氷河期世代の中心層となる35~44歳の雇用形態等内訳

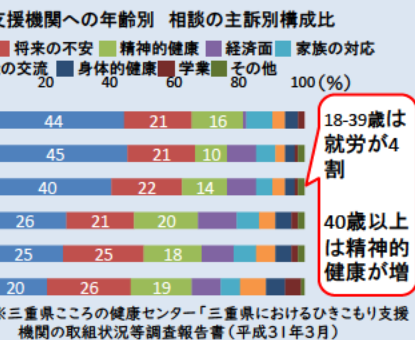
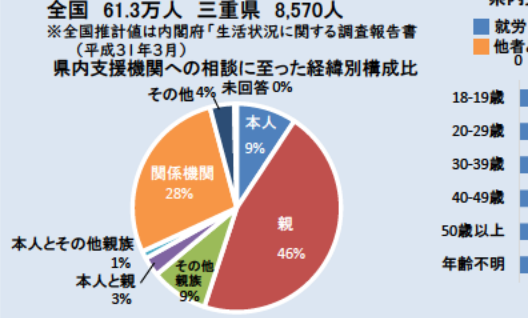


うち無業者40万人
うち正規雇用希望50万人



※厚生労働省「認知症総合支援事業実施状況調べ」に基づき県作成

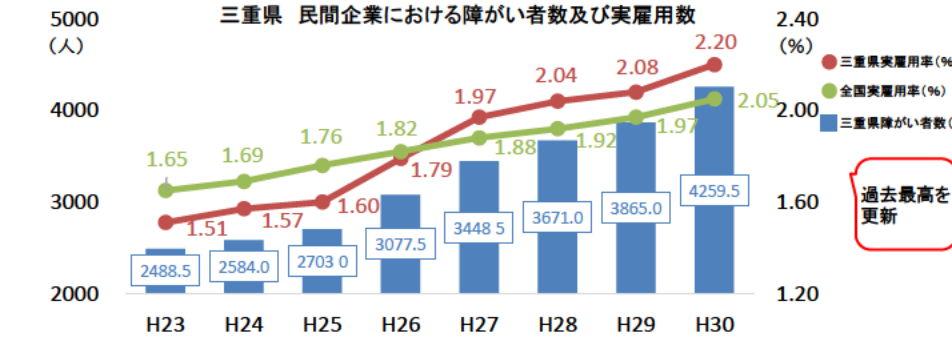
40~64歳のひきこもりの推計数



18-39歳は就労が4割
40歳以上は精神的健康が増

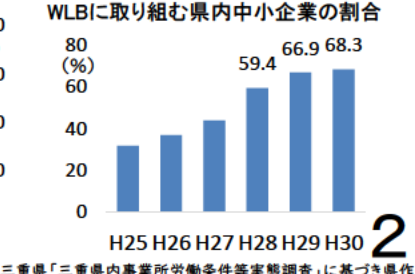
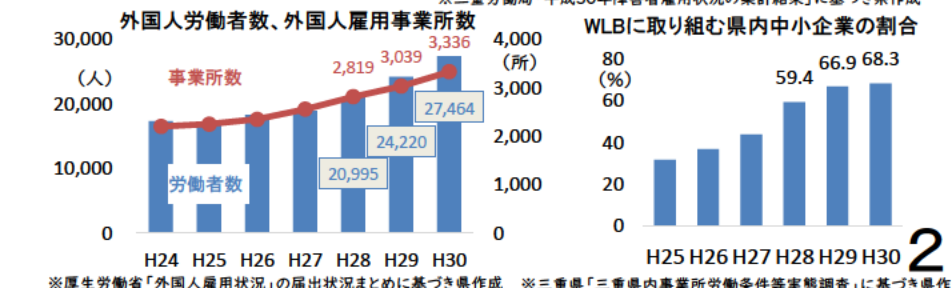
※三重県こころの健康センター「三重県におけるひきこもり支援機関の取組状況等調査報告書(平成31年3月)」

⑦多様な働き方の拡大



過去最高を更新

※三重労働局「平成30年障害者雇用状況の集計結果」に基づき県作成



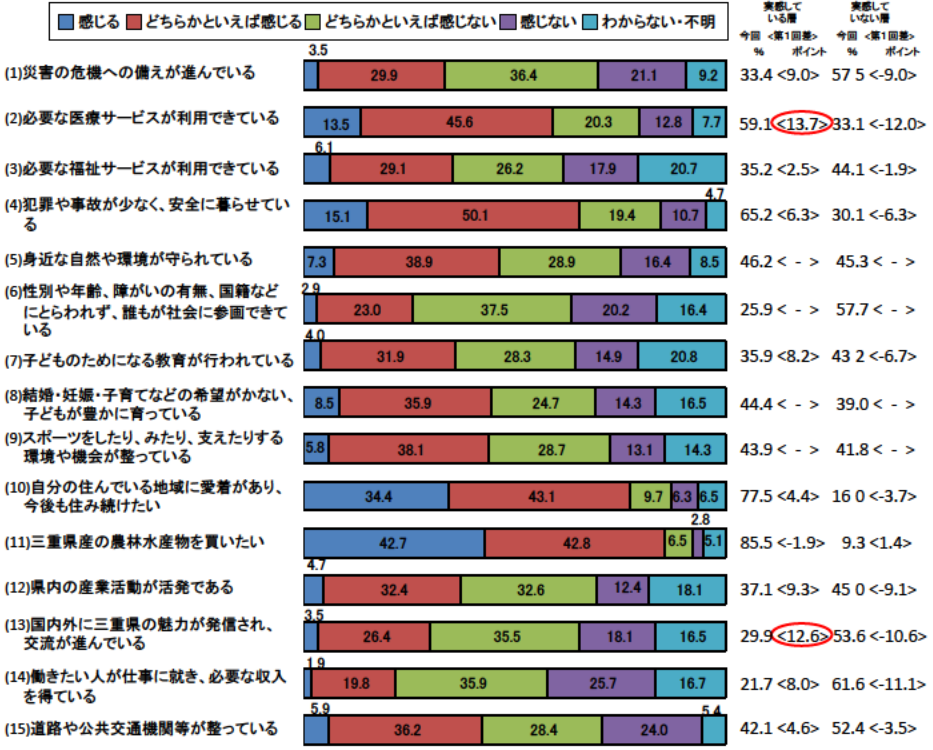
※厚生労働省「外国人雇用状況」の届出状況まとめに基づき県作成 ※三重県「三重県内事業所労働条件等実態調査」に基づき県作成

Ⅱ みえ県民意識調査

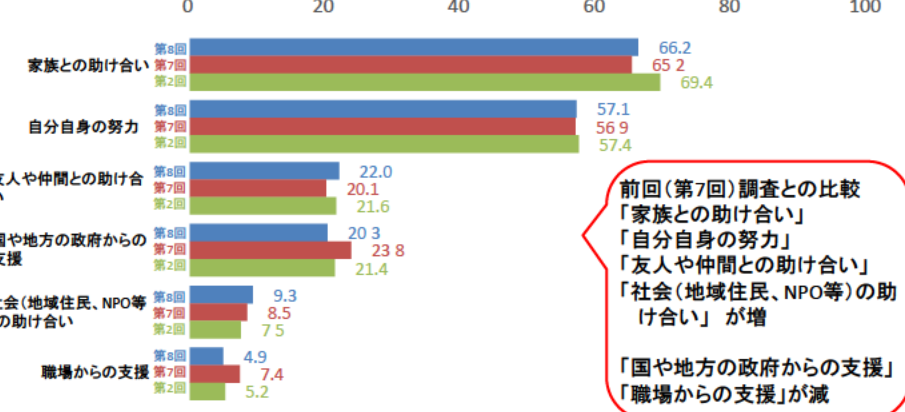
■ 幸福度の推移

第1回 H23	第2回 H24	第3回 H25	第4回 H26	第5回 H27	第6回 H28	第7回 H29	第8回 H30
6.56	6.68	6.75	6.60	6.67	6.71	6.70	6.69

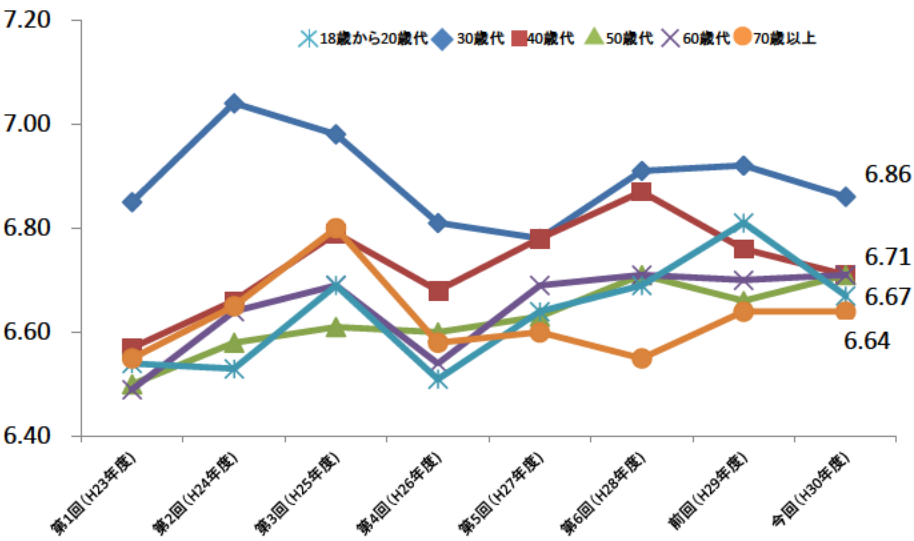
■ 幸福実感指標の推移



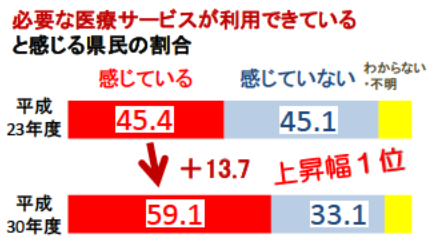
■ 幸福度を高める手立て



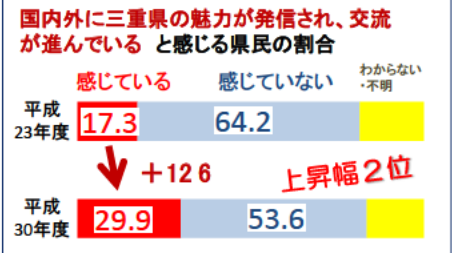
■ 幸福度の平均値の推移(年齢別)



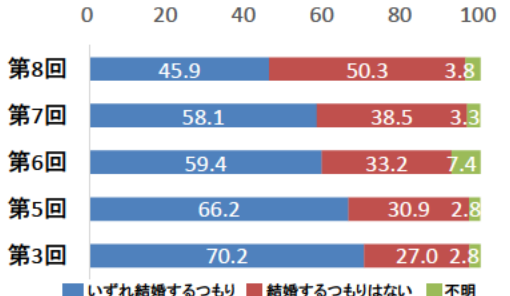
命を守る



世界に開かれた三重



■ 未婚の方の結婚に関する考え方



■ (中段)年齢別の幸福度は30歳代が最も高い。すべての年齢階級で第1回より高くなっている。

■ (下段)未婚の方の結婚に対する考え方で「いずれ結婚するつもり」は第3回以降減少。前回との比較では、年齢別では30歳代が(-12.7)、職業別ではパート・バイト・派遣が(-15.7)と最も大きくポイント減少した。

Ⅲ Society5.0

Society 5.0で実現する社会



県取組

○株式会社浅井農園

農業 × ICT自動化設備

- 育種及び栽培技術等の研究開発、野菜果実の生産及び流通開発
- ・ICT活用による生育データ収集、AIによる生産改善
 - ・品種開発や高度栽培技術(浅井農園)とロボット等自動化技術(デンソー)を統合
 - ・ミニトマト生産量は慣行の施設栽培の約3倍
 - ・地域雇用の拡大、子育て世代や障がい者が安心して働ける職場を実現
 - ・約12.8haの次世代型施設園芸、夜間の自動収穫



○有限会社及び

老舗食堂・商店 × AI・ビッグデータ

- 内宮近くの老舗食堂、小売店
- ・画像解析AIやビッグデータを活用し、来客予測、顧客の属性・志向の分析、従業員の動線短縮
 - ・6年間で売上4倍
 - ・食品ロス7割削減
 - ・1人あたり生産性が10倍
 - ・社員の給料アップ、有給休暇消化率80%



経済発展と社会的課題の解決の両立

イノベーションで創出される**新たな価値**により、格差なくニーズに対応したモノやサービスを提供することで、**経済発展**と**社会的課題を解決**を両立



○データサイエンス推進構想(仮称)

- ・データサイエンスによる新産業創出、地域課題解決、データ利活用人材の育成・流入・集積を推進する体制構築をめざす。
- ・産学官連携による取組推進体制の確立、産学官プラットフォームを基盤とする事業展開、人材育成・確保の3点を柱に据え、有識者会議にて構想検討。

○空飛ぶクルマ

- ・近い将来に実現が見込まれる「空飛ぶクルマ」を活用し、新たなサービスを創出して、地域課題を解決するため、民間事業者による県内での事業化を見据えた機運醸成や受入環境整備を行う。
- ・離島・過疎地、観光、県内産業等での活用をめざし、実証事業を行う民間事業者誘致、市町連携、ロードマップ作成、プロモーション等を実施。

○児童相談所AI導入

- ・産業技術総合研究所(茨城県つくば市)がAIによる児童虐待対応支援システムを開発。AIが過去データを基に児童を一時保護する必要性等を示す。
- ・県はデータ提供で協力。県内の児童相談所で国内で初めて試験導入実施。

○スマート自治体

- ・AI、RPA等の新たな技術導入により、業務の効率化と正確性の確保を図る。
- ・外国人旅行者対応へのAIチャットボット(人工知能を活用した自動会話プログラム)活用、録音データからの会議録作成、RPAの実証・検証、市町支援等

